

参考文献一覽

【参考文献一覧】

第1章

第1節について

- 新井崇徳、木下怜子、室屋孟門、八木智美（2014）「個人消費の基調と駆け込み需要の現状評価」マンスリー・トピックス Mo.029 内閣府（2014年3月）
http://www5.cao.go.jp/keizai3/monthly_topics/2014/0317/topics_029.pdf
- 新井崇徳、木下怜子、鈴木俊光、當麻江美、室屋孟門、八木智美（2014）「2014年1-3月期の個人消費の動向と先行きの留意点」マンスリー・トピックス No.031 内閣府（2014年5月）
http://www5.cao.go.jp/keizai3/monthly_topics/2014/0523/topics_031.pdf
- 経済企画庁（1990）『平成2年度年次経済報告』
- 経済企画庁（1998）『平成10年度年次経済報告』
- 経済企画庁調査局（1998）『平成10年版 日本経済の現況 —試される日本経済の変革力—』
- 近藤正人、坂本勇輝、愛宕伸康、田原健吾（2012）「消費税率引き上げによる駆け込み需要について」経済百葉箱 第61号 公益社団法人日本経済研究センター（2012年10月）
<http://www.jcer.or.jp/report/econ100/index4498.html>
- 佐藤亮洋、中島岳人（2013）「経常収支の黒字縮小の要因と最近の円安の影響」マンスリー・トピックス No.018 内閣府（2013年5月）
http://www5.cao.go.jp/keizai3/monthly_topics/2013/0412/topics_018.pdf
- 内閣府（2011）「社会保障・税一体改革の論点に関する研究報告書」
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2005）『日本経済2005-2006 —デフレ脱却へ向けての現状と課題—』
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2009）『日本経済2009-2010 —デフレ下の景気持ち直し：「低水準」経済の総点検—』
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2013）『日本経済2013-2014 —デフレ脱却への闘い、次なるステージへ—』
- 中川忍、大島一郎（2000）「実質金利の低下は個人消費を刺激するのか？ —実証分析を中心に—」、日本銀行ワーキングペーパーシリーズ00-2、日本銀行
- 日本銀行（1997）『わが国金融経済の分析と展望 —情勢判断資料（1997年夏）—』
- 日本貿易振興機構（2014）「2013年度日本企業の海外事業展開に関するアンケート調査 ～ジェットロ海外ビジネス調査～」
- 森口大輔、川上武志、八木智美（2014）「住宅建設における消費税率引上げの影響」マンス

リー・トピックス No.028 内閣府 (2014年2月)

(http://www5.cao.go.jp/keizai3/monthly_topics/2014/0219/topics_028.pdf)

第2節について

稲垣賢秀、宇都宮秀夫、登地孝行、藤川衛、赤尾朋子、蓮見亮 (2014) 「主要国の金融政策と
フォワード・ガイダンス」金融研究レポート 20130-7、日本経済研究センター

祝迫得夫 (2012) 『家計・企業の金融行動と日本経済』日本経済新聞出版社

鶴飼博史 (2006) 「量的緩和政策の効果 —実証研究のサーベイ」2006年『金融研究』第25巻
第3号、日本銀行金融研究所

翁邦雄 (2013) 『金融政策のフロンティア』日本評論社

木村武、嶋谷毅、桜健一、西田寛彬 (2011) 「マネーと成長期待：物価の変動メカニズムを巡っ
て」日本銀行金融研究 第30巻第3号 (2011年8月)

木下信行 (2012) 「わが国企業の低収益制等の制度的背景について」IMES Discussion Paper
Series No.2012-J-12

京増絹子、高田英樹 (2006) 「マネーサプライの動向について」日銀レビュー 日本銀行

佐藤健裕 (2013) 「わが国の経済・金融情勢と金融政策」日本銀行

(http://www.boj.or.jp/announcements/press/koen_2013/ko130722a.htm/)

佐藤健裕 (2014) 「量的・質的金融緩和と財政健全化の重要性」日本銀行

(https://www.boj.or.jp/announcements/press/koen_2014/ko140319d.htm/)

嶋谷毅、中嶋基晴、上野陽一、馬場直彦 (2005) 「わが国企業による有利子負債の圧縮と利益
配分策」日銀レビュー、2005-J-7

白井さゆり (2013) 「我が国の金融政策とフォワードガイダンス —金融政策運営についての
コミュニケーション政策—」日本銀行

(http://www.boj.or.jp/announcements/press/koen_2013/ko130921a.htm/)

白川方明 (2008) 『現代の金融政策 理論と実際』日本経済新聞出版社

内閣府政策統括官 (経済財政分析担当) (2013) 『日本経済2013-2014 —デフレ脱却への闘い、
次なるステージへ—』

日本銀行 (2014) 「金融システムレポート」日本銀行 (2014年4月)

日本銀行企画局 (2002) 「金融政策運営に果たすマネーサプライの役割」日本銀行調査論文

西口周作、中島上智、今久保圭 (2014) 「家計のインフレ予想の多様性とその変化」日銀レ
ビュー、2014-J-1

堀敬一、安藤浩一、齊藤誠 (2009) 「日本企業の流動性資産保有に関する実証研究：上場企業
の財務データを用いたパネル分析」Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series 081

- 渡辺努 (2004) 「財政規律・国債管理と金融政策」 RIETI Discussion Paper Series 04-J-011
- Bayoumi et al. (2014) “Monetary Policy in the New Normal,” IMF Staff Discussion Note, SDN/14/3.
- Blanchard, O., Dell’Ariccia, G., and Mauro, P., (2013) “Rethinking Macro Policy II : Getting Granular,” IMF Staff Discussion Note, SDN/13/03.
- Filardo, A., and Hofmann, B., (2014), “Forward guidance at the zero lower bound,” BIS Quarterly Review, March 2014.
- IMF (2013), “Global Financial Stability Report, 2013 Oct”
- IMF (2014), “Global Financial Stability Report, 2014 Apr”
- IMF (2013), “Unconventional Monetary Policies –Recent Experience and Prospects,” IMF Policy Paper.
- IMF (2013), “Global Impact and Challenges of Unconventional Monetary Policies,” IMF Policy Paper.
- IMF (2013), “2013 Spillover Report,” IMF Multilateral Policy Issues Report.
- IMF (2014), “Transcript of a Press Briefing on the World Economic Outlook (WEO),” 2014 Apr.
- Kocherlakota, N. (2012) “Central Bank Independence and Sovereign Default,” Remarks at the Sovereign Debt Seminar, FRB.
- Haltom, R., and Weinberg, J.A., (2011) “Unsustainable Fiscal Policy –Implications for Monetary Policy,” The Federal Reserve Bank of Richmond, 2011 Annual Report.
- Momma, K., and Kobayakawa, S., (2014) “Monetary Policy after the Great Recession : Japan’s Experience” FUNCAS Social and Economic Studies, Monetary Policy after the Great Recession, pp.73-99.
- Sargent, T.J., and Wallace, N., (1981) “Some Unpleasant Monetarist Arithmetic,” Federal Reserve Bank of Minneapolis Quarterly Review/Fall 1981.
- Shinada, N., (2012) “Firm’s Cash Holdings and Performance : Evidence from Japanese corporate finance,” RIETI Discussion Paper Series, 12-E-031.
- Yellen, J., (2012) “Perspective on Monetary Policy,” Remarks at the Boston Economic Club Dinner, FRB.
(<http://www.federalreserve.gov/newsevents/speech/yellen20120606a.htm/>)
- Yellen, J., (2013) “Challenges Confronting Monetary Policy,” Remarks at the 2013 NABE Economic Policy Conference, FRB.
(<http://www.federalreserve.gov/newsevents/speech/yellen20130302a.htm>)

第3節について

- 印南一路（2009）『社会的入院の研究 高齢者医療最大の病理にいかに対処すべきか』東洋経済新報社
- 大野太郎、布袋正樹、佐藤栄一郎、梅崎知恵（2011）「法人税における税収変動の要因分解～法人税パラドックスの考察を踏まえて～」PRI Discussion Paper Series (No.11A-09)
- 栗林令子（2013）「一般病床のゆくえ」医事業務、2013年12月15日号
- 厚生労働省（2005）『厚生労働白書』
- 厚生労働省（2007）『厚生労働白書』
- 田近栄治、八塩裕之（2005）「税制と事業形態選択—日本のケース」財政研究（日本財政学会機関誌）第1巻、pp.177～194
- 長野県医療と介護の連携協議会（2013）「医療と介護の連携マニュアルvol.4」
- 21世紀政策研究所（2013）『持続可能な医療・介護システムの再構築 報告書』
- 内閣府政策統括官（経済財政—景気判断・政策分析担当）（2002）「海外諸国における経済活性化税制の事例について」政策効果分析レポートNo.12
- 野口悠紀雄（2003）『「超」税金学』新潮社
- Auerbach, A.J., Slemrod, J. (1997) “The economic effects of the tax reform act of 1986,” *Journal of Economic Literature*, vol.35 (2)
- Barnes et. al (2011) “The GDP impact of reform: A simple simulation framework,” OECD Economics department Working Papers No.834
- Coppola, M.,Wilke, C. B. (2010) “How sensitive are subjective retirement expectations to increases in the statutory retirement age? The German case,” MEA discussion paper series 10207
- Cribb, J., Emmerson, C., Tetlow, G. (2014)” Incentives, shocks or signals : labour supply effects of increasing the female state pension age in the UK,” IFS Working Papers (W13/03)
- Devries, P., Guajardo, J., Leigh, D., Pescatori, A. (2011)” A New Action-based Dataset of Fiscal Consolidation,” IMF Working Paper No. 11/128
- European Commission (2012)” Tax reforms in EU Member States 2012—Tax policy challenges for economic growth and fiscal sustainability”
- Eissa, N. (1995)” Taxation and Labor Supply of Married Women : The Tax Reform Act of 1986 as a Natural Experiment,” NBER Working Paper No. 5023
- Guajardo, J., Leigh, D., Pescatori, A. (2011).” Expansionary Austerity New International Evidence,” IMF Working Paper No. 11/158

- Hagemann, R. P. (2012), “Fiscal Consolidation : Part 6. What Are the Best Policy Instruments for Fiscal Consolidation?”, OECD Economics Department Working Papers, No.937
- Klevmarcken, N., A. (2000)” Did the Tax Cuts Increase Hours of Work? A Statistical Analysis of a Natural Experiment,” *Kyklos* Vol.53 (3)

第2章

第1節について

- 経済企画庁 (1997) 『平成9年度 年次経済報告』
- 経済企画庁 (1997) 『日本経済の現況 平成10年版』
- 経済企画庁 (1998) 『平成10年度 年次経済報告』
- 経済の好循環実現検討専門チーム (2013) 「中間報告」内閣府 (2013年11月)
- 白塚重典 (2006) 「消費者物価指数のコア指標」日銀レビュー 日本銀行
(http://www.boj.or.jp/research/wps_rev/rev_2006/data/rev06j07.pdf)
- 内閣府 (2004) 『平成16年度 年次経済財政報告』
- 内閣府 (2005) 『平成17年度 年次経済財政報告』
- 内閣府 (2006) 『平成18年度 年次経済財政報告』
- 内閣府 (2007) 『平成19年度 年次経済財政報告』
- 内閣府 (2008) 『平成20年度 年次経済財政報告』
- 内閣府 (2013) 『平成25年度 年次経済財政報告』
- 内閣府政策統括官 (経済財政分析担当) (2013) 『日本経済2013-2014 ーデフレ脱却への闘い、次なるステージへー』
- 日本銀行 (2014) 『金融経済月報 (2014年3月)』
- Bryan, Micheal and Meyer, Brent (2011)” Should we even read the monthly inflation report? Maybe not. Then again...,” Federal Reserve Bank of Atlanta
(<http://macroblog.typepad.com/macroblog/2011/06/should-we-even-read-the-monthly-inflation-report-maybe-not-then-again.html>)

第2節について

- 井上裕介、有馬基之、中野貴比呂、茨木秀行 (2006) 「企業の賃金決定行動の変化とその背景」

- 経済財政分析ディスカッション・ペーパー、内閣府政策統括官室（経済財政分析担当）
- 川本卓司、篠崎公昭（2009）「賃金はなぜ上がらなかったのか？—2002～07年の景気拡大期における大企業人件費の抑制要因に関する一考察—」日本銀行ワーキングペーパーシリーズ、No.09-J-5 日本銀行
- 厚生労働省（2013）『平成25年版 労働経済の分析』
- 坂本貴志、村上嘉隆、権田直「賃金の動向について —最近の所定内給与・特別給与の変化—」マンスリートピックス No.023 内閣府（2013年9月）
(http://www5.cao.go.jp/keizai3/monthly_topics/2013/0913/topics_023.pdf)
- 政労使会議（2013）「経済の好循環実現に向けた政労使の取組について」
(<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/seirousi/pdf/torikumi.pdf>)
- 鶴光太郎（2013）「最低賃金の労働市場・経済への影響 —諸外国の研究から得られる鳥瞰図的な視点—」RIETI Discussion Paper Series 13-J-008、経済産業研究所
(<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/13j008.pdf>)
- 内閣府（2007）『平成19年度 年次経済財政報告』
- 内閣府（2010）『平成22年度 年次経済財政報告』
- 内閣府（2011）『平成23年度 年次経済財政報告』
- 内閣府（2013）『平成25年度 年次経済財政報告』
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2012）『日本経済2012-2013 —厳しい調整の中で活路を求める日本企業—』
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2013）『日本経済2013-2014 —デフレ脱却への闘い、次なるステージへ—』
- 山本勲（2010）「賃金調整・雇用調整とフィリップス曲線の変化—1990年代の変化とその背景」『労働市場と所得分配』（樋口美雄編集、第2章）、「バブル/デフレ期の日本経済と経済政策、6」、慶応技術大学出版会
- 労働政策研究・研修機構（2006）「ドイツにおける労働市場改革 —その評価と展望—」労働政策研究報告書、No.69
(http://www.jil.go.jp/institute/reports/2006/documents/069_00.pdf)
- 労働政策研究・研修機構（2013）「最低賃金と企業行動に関する調査 —結果の概要と雇用への影響に関する分析」
(<http://www.jil.go.jp/institute/research/2013/documents/0108.pdf>)
- Akerlof, G.A., Dickens, W.T. and Perry, G.L. (1996) “The Macroeconomics of Low Inflation,” *Brookings Papers on Economic Activity*, pp.1-76.
- OECD（2012）, OECD Employment Outlook 2012.

第3節について

- 河田皓史、永沼早央梨（2010）「わが国の労働力率の動向に関する一考察」日銀レビュー、日本銀行
 （http://www.boj.or.jp/research/wps_rev/rev_2010/data/rev10j18.pdf）
- 厚生労働省（2013）『平成25年版 労働経済の分析』
- 厚生労働省（2005）『平成16年版 働く女性の実情』
- 権赫旭、金榮慤、牧野達治（2012）「企業の教育訓練の決定要因とその効果に関する実証分析」RIETI Discussion Paper Series 12-J-013、経済産業研究所
 （<http://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/12j013.pdf>）
- 成長のための人的資源活用検討専門チーム（2013）「成長のための人的資源の活用の今後の方向性について」
 （<http://www5.cao.go.jp/keizai2/keizai-syakai/k-s-kouzou/pdf/jintekisigenhoukokusyo.pdf>）
- 内閣府（2009）『平成21年度 年次経済財政報告』
- 内閣府（2010）『平成22年度 年次経済財政報告』
- 内閣府（2013a）『平成25年度 年次経済財政報告』
- 内閣府（2013b）『平成25年版 高齢社会白書』。
- 内閣府（2013c）『平成25年版 男女共同参画白書』。
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2012）『日本経済2012—2013 —厳しい調整の中で活路を求める日本企業—』
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2013）『日本経済2013—2014 —デフレ脱却への闘い、次なるステージへ—』
- 日本銀行調査統計局（2010）「正社員の企業間移動と賃金カーブに関する事実と考察—日本的雇用慣行は崩れたか？」日本銀行調査論文
 （http://www.boj.or.jp/research/brp/ron_2010/data/ron1010c.pdf）
- 日本経済再生本部（2013）「日本再興戦略—JAPAN is BACK—」（2013年6月14日閣議決定）
 （http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/saikou_jpn.pdf）
- 労働政策研究・研修機構（2013）「平成25年度 労働力需給の推計」
- Steinberg, C. and Nakane, M. (2012) “Can Women Save Japan?,” IMF Working Paper, No.12/248.
- Jorgenson, D.W. and Motohashi, K. (2005) “Information technology and the Japanese economy,” Journal of the Japanese and International Economies, Vol.19, No.4, pp.460-481.

第3章

第1節について

- 岩本武和（2013）「グロスの資本フローと国際投資ポジションからみた世界の構造転換」平成24年度国際共同研究プロジェクト『世界経済の構造転換が東アジア地域に与える影響』内閣府経済社会総合研究所（2013年4月）
- 経済産業省（2012）『通商白書2012』
- 経済産業省（2014）『通商白書2014』
- 後藤康雄（2013）「我が国企業部門のISバランスについて」経済のプリズム第115号 参議院調査室（2013年7月）
- 小峰隆夫（2013）「経常収支赤字化が意味するもの」『貿易・国際収支の構造的変化と日本経済に関する研究会報告書』財務省財務総合政策研究所（2013年6月）
- 財務省財務総合政策研究所（2013）『貿易・国際収支の構造的変化と日本経済に関する研究会報告書』（2013年6月）
- 佐久間隆、増島稔、前田佐恵子、符川公平、岩本光一郎（2011）「短期日本経済マクロ計量モデル（2011年版）の構造と乗数分析」ESRI Discussion Paper Series No.259 内閣府経済社会総合研究所（2011年1月）
- 佐藤亮洋、小倉信洋、水田豊（2014）「海外現地生産の動向と輸出への影響」マンズリートピックス No.030（2014年4月）内閣府
- 清水順子、佐藤清隆（2014）「アベノミクスと円安、貿易赤字、日本の輸出競争力」RIETI Discussion Paper Series 14-J-022 経済産業研究所（2014年4月）
- 内閣府（2013）『平成25年度 年次経済財政報告』
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2012）『日本経済2012-2013 一厳しい調整の中で活路を求める日本企業一』
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2013）『日本経済2013-2014 一デフレ脱却への闘い、次なるステージへ一』
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2014）『世界経済の潮流2014 I 一新興国経済のリスクと可能性一』
- 日本銀行（2014）「地域経済報告 一さくらレポート一（2014年4月）」
- 日本銀行国際局（2007）「2006年の国際収支（速報）動向」
- 益田安良（2006）『中小企業金融のマクロ経済分析』中央経済社
- 米良有加、倉知善行、尾崎直子（2013）「最近の訪日外国人増加の背景とわが国経済への影響」日銀レビュー 2013-J-7 日本銀行
- 吉野直行編著（2012）「中長期の経常収支の見方について」有識者会議レビューNo.1 内閣府

政策統括官（経済社会システム担当）（2012年9月）

第2節について

加藤涼、永沼早央梨（2013）「グローバル化と日本経済の対応力」日本銀行ワーキングペーパー
シリーズ No.13-J-13 日本銀行

(https://www.boj.or.jp/research/wps_rev/wps_2013/data/wp13j13.pdf)

経済産業省（2002）『通商白書2002』

経済産業省（2004）『通商白書2004』

経済産業省（2006）『通商白書2006』

経済産業省（2007）『通商白書2007』

経済産業省（2008）『通商白書2008』

経済産業省（2012）『通商白書2012』

経済産業省（2013）『通商白書2013』

経済産業省（2014）『通商白書2014』

経済産業省・厚生労働省・文部科学省（2011）『ものづくり白書2011年版』

経済産業省・厚生労働省・文部科学省（2013）『ものづくり白書2013年版』

佐藤亮洋、小倉信洋、水田豊（2014）「海外現地生産の動向と輸出への影響」マンスリートピッ
クス No.030 内閣府（2014年4月）

(http://www5.cao.go.jp/keizai3/monthly_topics/2014/0417/topics_030.pdf)

関下稔（2011）「アメリカ多国籍企業の科学技術・管理・サービス労働者のグローバルな活用
と業務展開 —H-1B/L-1ビザの利用とオフショアアウトソーシング活動の功罪を考える
—（二）」『立命館国際研究』24巻1号，2011年6月

(<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cg/ir/college/bulletin/Vol.24-1/06Sekishita.pdf>)

田原慎二（2009）「製造業とサービス業の相互連関と構造変化：1980-2000年の日本経済の産業
連関分析」『横浜国際社会科学研究所』第14巻第3号、111-130頁

(<http://kamome.lib.ynu.ac.jp/dspace/bitstream/10131/5839/1/7-Tahara.pdf>)

田原慎二（2010）「製造業の構造変化と部門別産出量・雇用量への影響：1980-2000年の日本経
済の産業連関分析」『横浜国際社会科学研究所』第15巻第3号、117-136頁

(<http://kamome.lib.ynu.ac.jp/dspace/bitstream/10131/7316/1/8-Tahara.pdf>)

田原慎二（2013）「製造業の構造変化と脱工業化：1980-2000年の日本経済の産業連関分析」『横
浜国際社会科学研究所』第17巻第6号、155-172頁

(<http://kamome.lib.ynu.ac.jp/dspace/bitstream/10131/8292/1/9-Tahara.pdf>)

内閣府（2011）『平成23年度 年次経済財政報告』

- 内閣府 (2013)『平成25年度 年次経済財政報告』
- 内閣府政策統括官 (経済財政分析担当) (2012)『日本経済2012-2013 ―厳しい調整の中で活路を求める日本企業―』
- 内閣府政策統括官 (経済財政分析担当) (2013)『日本経済2013-2014 ―デフレ脱却への闘い、次なるステージへ―』
- 中村吉明 (2013)「これから5年の競争地図：グローバルものづくりのトレンド」東洋経済新報社
日本貿易振興機構 (2013)「米国の製造業回帰を検証する」
(http://www.jetro.go.jp/jfile/report/07001461/us_manufacturing.pdf)
- 平塚大祐編 (2006)『東アジアの挑戦 ―経済統合・構造改革・制度構築―』アジア経済研究所
- 百嶋徹 (2013)「アップルのものづくり経営に学ぶ ―創造性 (製品企画開発力) と経済性 (収益力) の両立の徹底追求」ニッセイ基礎研REPORT 2013年3月
(<http://www.nli-research.co.jp/report/report/2013/05/repo1305-2.pdf>)
- 淵田康之 (2013)「経済における金融セクターのシェアを巡る論点」野村資本市場研究所『野村資本市場クォーターリー』2013冬号
(<http://www.nicmr.com/nicmr/report/repo/2013/2013win02.pdf>)
- 松村博行 (2013)「製造業再興を目指す米国の試み―オバマ政権のイニシアチブとその限界―」立命館国際地域研究第37号 2013年3月
(http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/ras/04_publications/ria_ja/37_03.pdf)
- 港徹雄 (2011)「日本のものづくり 競争力基盤の変遷」日本経済新聞出版社
- ユーベル・エスカット、猪俣哲史編著 (2011)『東アジアの貿易構造と国際価値連鎖 モノの貿易から「価値」の貿易へ』アジア経済研究所
- A. Maroto-Sanchez (2010) “Growth and productivity in the service sector : the state of the art.” Institute of Social and Economic Analysis, WP. No.07/2010
(http://www.iaes.es/iures_sp/publications.html)
- Backer, K. D. and S. Miroudot (2013) “Mapping Global Value Chains.” OECD Trade Policy Papers, No.159, OECD Publishing.
(http://www.oecd.org/dac/aft/MappingGlobalValueChains_web_usb.pdf)
- Baldwin, Richard and Toshihiro Okubo (2012) “Networked FDI : Sales and Sourcing Patterns of Japanese Foreign Affiliates.” RIETI Discussion Paper Series No.12-E-027.
(<http://www.nber.org/papers/w18083.pdf>)
- Cecchetti, S. G. and Kharroubi, E (2012) “Reassessing the Impact of Finance on Growth.” BIS Working Paper No.381. (<http://ssrn.com/abstract=2117753>)
- Frank, R. and Kalmbach, P. (2005) “Structural Change in the Manufacturing Sector and its Input on Business Related Services : an Input-Output study for Germany.” Structural Change and Economic Dynamics Vol.16, pp.467-468.

- (http://ac.els-cdn.com/S0954349X04000670/1-s2.0-S0954349X04000670-main.pdf?_tid=0d2e60da-011b-11e4-bc3b-00000aab0f01&acdnat=1404217822_25ed14cfd9c2b7a3579732e14b934e7a)
- Gereffi, G. (2011) “Global Value Chains and International Competition,” The Antitrust Bulletin, vol.56 (1) , pp.37-56.
- Grossman, G. M. and Rossi-Hansberg, E. (2008) “Trading Tasks : A Simple Theory of Offshoring.” American Economic Review, 98 (5) , pp.1978-1997.
(<https://www.princeton.edu/~grossman/TradingTasks.pdf>)
- Hummels, D., J. Ishii and K.-M. Yi. (2001) “The Nature and Growth of Vertical Specialization in World Trade.” Journal of International Economics, Vol. 54 (1) , pp.75-96.
(http://www.fednewyork.org/research/staff_reports/sr72.pdf)
- OECD (2013) “Interconnected Economies : Benefiting from Global Value Chains.” OECD Synthesis Report.
(<http://www.oecd.org/sti/ind/interconnected-economies-GVCs-synthesis.pdf>)
- OECD (2014) “The Role of the Financial Sector for Economic Growth in OECD and G20 Countries.” ECO/CPE/WP1 (2014) 6. Pisano, P. Gary and Shih C. Willy (2012) “Does America Really Need Manufacturing ? .” Harvard Business Review.
- Qatar Financial Centre (2014) “The Global Financial Centres Index 15.”
- Switzerland Global Enterprise (2012) 「事業展開ハンドブック」
- Timmer, M.P., Erumban, A.A., Los, B., Stehrer, R. and de Vries, G. J. (2014) “Slicing Up Global Value Chains.” Journal of Economic Perspectives, Vol.28 (2) , pp.99-118.
(<http://www.irs.princeton.edu/sites/irs/files/event/uploads/Slicing%20Up%20Global%20Value%20Chains%20Timmer%20and%20others%20GGDC%20RM.pdf>)

第3節について

- 乾友彦、杉原茂、川渕孝一、空閑信憲、池本賢悟、石川知宏 (2010) 「非市場型サービス産業のアウトプット計測に関する研究のサーベイ—医療、教育、金融—」 ESRI Research Note No.12 内閣府経済社会総合研究所
- インテージ (2011) 「医療のアウトプットの計測に関する調査報告書」内閣府経済社会総合研究所委託調査 (2011年10月)
- 加藤篤行 (2007) 「サービスセクター生産性に関するサーベイ」 RIETI Discussion Paper Series 07-P-005 経済産業研究所
- 河口洋行 (2012) 「公的医療保障制度と民間医療保険に関する国際比較—公私財源の役割分担

- とその機能」成城・経済研究第196号（2012年3月）
- 桑原進、上田路子、河野志穂（2013）「生活の質に関する調査（世帯調査：訪問留置法）の結果について」ESRI Research Note No.23 内閣府経済社会総合研究所（2013年9月）
- 公益財団法人生命保険文化センター（2013）「生活保障に関する調査《速報版》」
- 厚生労働省（2009）『平成21年版厚生労働白書』
- 厚生労働省（2012）『平成24年版厚生労働白書』
- 財務省財務総合政策研究所（2010）「医療制度の国際比較」
- 財務省財務総合政策研究所（2014）「高齢社会における選択と集中に関する研究会」
- 桜健一、永沼早央梨、西崎健司、原尚子、山本龍平（2012年）「日本の人口動態と中長期的な成長力：事実と論点の整理」日本銀行調査統計局（2012年8月）
- 社会保障制度改革国民会議（2013）「社会保障制度改革国民会議報告書～確かな社会保障を将来世代に伝えるための道筋～」
- 田近栄治編（2012）「医療制度における公的保険と民間保険の役割」フィナンシャル・レビュー 平成24年第4号（通巻第111号） 財務省財務総合政策研究所（2012年9月）
- 内閣府（2007）『平成19年度 年次経済財政報告』
- 内閣府（2009）『平成21年度 年次経済財政報告』
- 内閣府（2012）『平成24年度 年次経済財政報告』
- 内閣府経済社会総合研究所（2011）「幸福度に関する研究会報告—幸福度指標試案」
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2009）『日本経済2009-2010 —デフレ下の景気持ち直し：「低水準」経済の総点検—』
- 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）（2012）『日本経済2012-2013 —厳しい調整の中で活路を求める日本企業—』
- 日本貿易振興機構（2013）「活発化する世界の医療ビジネスサービス～各国・地域の医療サービスビジネス・制度報告～」
- 藤澤美恵子（2013）「国民経済計算における教育のアウトプット計測についての考察」季刊国民経済計算 No.150 内閣府経済社会総合研究所
- 松浦寿幸、砂田充（2009）「小売業における競争と消費者厚生への計測」CPRC Discussion Paper Series CPDP-40-J 公正取引委員会競争政策研究センター（2009年6月）
- 松島みどり、立福家徳、伊角彩、山内直人（2013）「現在の幸福度と将来への希望～幸福度指標の政策的活用～」New ESRI Working Paper No.27 内閣府経済社会総合研究所（2013年6月）
- （http://www.esri.go.jp/jp/archive/new_wp/new_wp030/new_wp027.pdf）
- みずほ情報総研株式会社（2012）「一人暮らし高齢者・高齢世帯の生活課題とその支援方策に関する調査研究事業報告書」
- みずほ総合研究所（2014）「訪日外客市場への五輪効果」みずほインサイト（2014年3月31日）

- 森川正之 (2008a) 「サービス業の生産性と密度の経済性—事業所データによる対個人サービス業の分析—」 RIETI Discussion Paper Series 08-J-008 経済産業研究所 (2008年4月)
- 森川正之 (2008b) 「サービス業における需要変動と生産性—事業所データによる分析—」 RIETI Discussion Paper Series 08-J-042 経済産業研究所 (2008年8月)
- 森川正之 (2009) 「サービス産業の生産性分析～政策的視点からのサーベイ～」 日本銀行ワーキングペーパーシリーズ No.09-J-12 日本銀行
- 森川正之 (2013) 「RIETIの生産性研究について：アップデート」 RIETI Discussion Paper Series 13-P-010 経済産業研究所 (2013年5月)
- 森川美絵、筒井孝子 (2011) 「日本の介護給付パフォーマンスに関する国際的・相対的評価に関する研究—OECD国際比較データの分析から—」 保健医療科学 2011 Vol.60 No.2 p.138-147 国立保健医療科学院 (2011年4月)
- Nordhaus, William D. (2002) “Alternative Methods for Measuring Productivity Growth Including Approaches When Output is Measured with Chain Indexes.”
- Nordhaus, William D. (2008) “Baumol’s Diseases : Macroeconomic Perspective” NBER Working Paper No.12218
- Office for National Statistics (2012) “Public Service Productivity Estimates : Healthcare, 2010”